

## 『神の基準!!』

ルカ 14：1～11

### ～あなたは何を基にしているか～

私たちはそれぞれ色々な判断基準を持っています。したがって同じ物事を見ても、それぞれの人の基準で判断するので、私たちの考え方はみな人によって違ってきます。あなたは物事をどのような基準で見ているでしょうか。基準とは本来私たちを守るためにあります。しかし最近では私たちの目線が変わり、人を裁くために使われるようになってしまっています。聖書の話しに出てきたパリサイ人もそうでした。神が安息日を創った当初の目的は人間の心も体もリフレッシュするためでした。神が創った人間が快適な状況で生活するために6日働き1日休むというサイクルを設けました。しかしパリサイ人はこの安息日に何かしたら罰するという人を裁くための法律に変えてしまいました。パリサイ人のように凝り固まった目線していると本来の主旨からの外れを避けず、的外れな人生(聖書でいう罪の状態)になってしまいます。そうならないために自分の基準がどのような土台から成り立っているか、いつも自分を見張り、自己中心ではない神の基準で物事を判断していく事が大切です。①**神の基準とは・・・裁くための基準ではありません**(ローマ 14：1～4) 相手が良くなってほしいという愛を持って伝える事が求められています。聖書には互いに戒め合うように書いてあります。相手が良くなってほしいと願って言うことは戒めとなりますが、反対に良くなるとあきらめて言うことは裁きが基となっています。裁く目線からイエスの愛を基準にして接していきましょう。②**愛の基準・・・喜ぶ者と共に喜ぶ・・・**(ローマ 12：9～19)。私たちの周りで受け入れがたい人はいないでしょうか。それは自分の基準で判断していないでしょうか。裁きの目線で相手を見つめているなら、伝わりません。イエスの愛に基づき、自分なら“こう言われたら聞ける”という方法で伝えてみましょう。復讐は神のすることであり、人がするなら罪となります。ここがズれていると環境が整わず、感謝が生まれません。イエス様の愛を基準にしましょう。99匹を残して1匹を探しにいった喩え話のように1匹の羊を背負う気持ちで接していきましょう。③**内側に対する基準**。神様の基準は私たちの外見に向いていません。私たちの内側が日々新しくされているかを見ています。昨日の起こった事を含め過去の事を引きずって生きていないでしょうか。他の人に対して自分がしなければいけない事はイエスキリストの目線で見、解決していくことです。自分が裁いては人を変えることはできません。人を変える前に、自分の基準を正さないといけません。イエス様ならどうするのか? イエス様の目線は相手が良くなる事を前提に行動しています。金持ちの青年に対しての喩(マルコ 10：17～)の中でイエスは彼を見つめ、慈しんで言われたと書かれています。イエスは青年に分かるように伝えました。上から目線で言ったのではありません。私たちもイエス様の慈しみの目を持って周りの人と接し、日々イエス様を研究しましょう。